

2020年11月15日(日)メッセージアウトライン 「定められた領分を越えた者の末路」

聖書箇所：ヘブル人への手紙2章14～16節

タイトル：「定められた領分を越えた者の末路」

テーマ：本日の聖書箇所から「悪魔(サタン)」の存在と、「子たち」「人々」と記されている人間の存在、神であられるのに人として来てくださったイエス・キリストのみわざを考えながら、定められた領分を越えたサタンと人間が、実は全く異なった末路を迎えるという事実に驚くばかりである。イエス・キリストとサタンと人間の存在をもう一度相互関係の中に見直しながら、この短い箇所に凝縮されている人間に対する神の愛と恵みに私たちはどのように応えて行けばよいか考えてみよう。

1. サタンの起源とその存在

①サタン

- * 「自分の領分を守らずに自分のいるべきところを捨てた御使いたち」 ユダ6節
「罪を犯した御使いたち」 IIペテロ2：4
- * 「御使い」とは天使のこと。サタンは墮落した御使いのこと。親分がサタン、子分は悪霊
- * 神に仕える者として創造された者が、神に反逆して、神のようになろうとした。いつ墮落したかはわからないが墮落の原因は「高慢」
- * 「サタン」(サタナ) はヘブル語(「訴える者」という意味) 多くの別名あり

②天使(天の御使い)

- * 神の被造物、霊的存在、死なない
- * 造られた目的 (ヘブル1：14)

③天使とサタンはいつから存在しているのか

- * 創世記3章に、サタンのはじめの記述がある。最初人間アダムを誘惑した時点で天使もサタンも存在している。いつから存在しているかは聖書は語っていない

2. サタンが人間に仕掛けたこと

- ①エデンの園での誘惑
- ②アダムとエバの応答とその結果

3. 人間に対する救いの約束とサタンに対する滅びの宣告

①神が發せられた約束 創世記3：15

「わたしは敵意を、おまえと女の間、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」

②サタンの悪あがき

③イエス・キリストの勝利の結果（ヘブル2：14～15、コロサイ2：14）

*創世記3：15の神の約束が成就した

4. 結論

①定められた領分を越えたサタンと人間の最終的結末は全く異なる

*サタンには救いの道がない。サタンはただ永遠の滅びに

「当然ながら、イエスは御使いたちを助け出すのではなく、アブラハムの子孫を助け出してくださるのです。」ヘブル2：16

*人間に開かれた救いの道——イエス・キリストを救い主として信じるか否か

神の愛と恵みとしてのイエス・キリストを拒む者はサタンと同じ永遠の滅びに

②神は何と人間を愛してくださったことか

③最後の悪あがきをしているサタンに、イエス様と同じ一言を！

*「下がれ、サタン」マタイ16：23

それに続いて「あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」とある（新改訳第3版）

*この一言を発する前に点検すべき私たちの心

「私は、今、神のことを思って進もうとしているのか、ただの人間的な思いを抱いているだけなのか」

「神のようになりたい」という高慢な思いから、神に反逆し、神に対して罪を犯したにも拘わらず、人間にだけ救いの道を開いてくださったイエス・キリストだけを見上げ、そのみ言葉に従順にお従いしていこうではないか。同時に、イエス・キリストを信じない人々が、サタンと同じ末路（永遠の滅び）をたどるのを放置しておいてよいのか、神は私たちに注いでくださった愛を他の人々にも注いでほしいと願っておられるのだ。そのことを忘れず、愛された者としての使命を帯びて新たな一步を踏み出そう。